

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュース・レターNo.48(2017年9月号)◆

夏も暑さの盛りを過ぎ、皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今回のニュース・レターは、今回は趣向を変えて、この夏休みに『Intelligence』編集委員会の各メンバーがどのような研究調査を行って過ごしたのか、短い報告にまとめて頂きましたので、お楽しみ下さい。さて、次号『Intelligence』第18号の投稿原稿を募集しております。締め切りは、9月末です。投稿をご予定の方は、事務局まであらかじめご連絡頂ければ幸いです。

ご愛読の会員の皆さまには、ニュース・レターとともに『Intelligence』会員専用ウェブサイト <http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> また、会員向けブログとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【ブログ用エッセイ募集】会員向けブログでのエッセイは、お楽しみ頂いていますでしょうか。第17回阪本博志さんの女中サークルの話、第18回の梅村卓さんの沙飛の話、第19回松田さおりさんのデュッセルドルフの話、どれも他では読めない興味深い内容です。ぜひ購読会員の方にお読み頂きたいと思います。また、このブログのエッセイの執筆希望者を、購読会員の中から募っております。研究に関する小話やヒント、資料紹介などを会員向けブログに掲載なさりたい方は、お原稿をお待ちしております。原稿の長さは千字程度、写真を二葉そえてご提出下さい。詳しいことは、事務局までご連絡下さい。

【特集コラム：2017年の夏を各編集委員はどう過ごしたか】

(小林聡明委員) 今年の夏は、1カ月間にわたってワシントン DC に滞在し、じっくりと公文書館での史料調査を実施することができた。リサーチャーが非常に多く、ほぼ満員という日もあったくらいであった。とにかくリサーチャーの数の多さには驚いた。そこまでアメリカの経済が持ち直し、好調なのかと、あらためて感じ入ることになった。

とりわけ驚いたことは、中国からのリサーチャーが大幅に増加していたことである。これまではごくわずかな人数の在米中国人学者や留学生が、小規模で公文書館で外交文書などの閲覧を行う程度であった。今回、目にした中国のリサーチャーは、とにかく年齢層が若く、大学院生がかなり多く含まれていた。潤沢な研究資金が、大学院生にも投入されているのであろう。一方、公文書館に来ている日本のリサーチャーは、これまでに比べて人数が減っていたように思われる。また、大学院生が史料調査を行っている姿もあまり見かけることができなかった。日本の学術予算は削減され続け、中国のそれは、増加の一端を辿っている。国際政治や安全保障分野だけでなく、学術分野における世界的なプレゼンスの位相変化に向きあわざるをえない今後を、あらためて強く認識させられた。

(川崎賢子委員)この夏はワシントンの米国公文書館、ロンドンの国立公文書館に出張調査しました。文学、映画、芸能の歴史的変容について貫戦期の枠組みで占領期資料を読み直す試みを続けています。連載をつづけていた李香蘭(山口淑子)研究は来春を目標に一冊にまとめる予定です。並行して昨春秋より刊行が始まった「定本夢野久作全集」の共編著者としての本文校訂も進行中で、第3巻が今秋に、第4巻が来年早々に上梓されます。6月末にウロンゴンの JSAA(Japanese Studies Association of Australia)で報告した「青い山脈」論の推敲と、クィーンズランド大学の先生と共著で企画している「老女」をめぐるエッセイ集の準備なども進めています。

(土屋礼子委員)ロンドンでの一年間の在外研究の終盤になって、BBC アーカイブに通った。BBC のアーカイブには映像のみを扱うアーカイブなど何種類もあり、場所も散在しているが、私の通ったのは文書のみを扱っているアーカイブで、レイディング(Reading)というロンドンの西に電車で40分ぐらいの場所にある。七席しかない小さなアーカイブのため、一ヶ月以上前から予約しないと行けない。しかも目録はデータベース化されていないので、担当者に事前にテーマを告げて相談しなければならなかった。ただし、注文したファイ

ルは何十冊でも一気に出してきて、写真撮影も書類にサインさえすれば、いくらでも問題なくできた。今秋 10 月には一ヶ月間閉館になり、その間にウェブの目録を整備する予定だという。そうすれば、もっと使いやすくなるだろうが、席の争奪戦がさらに熾烈になるのかもしれない。ここに通うのは、列車やバスを乗り継いでいくので大変だが、隣の BBC モニターとよばれる分館のレストランで昼を食べるのが唯一楽しみだった。そこはゴルフ場のように広々と芝生が広がり木々に囲まれた中にある貴族の別荘のような贅沢な環境で、そこそこのランチが 5 ポンド程度の安さで食べられるので、なかなかよい気分になれたのである。

(吉田則昭委員)今年夏は、今年度中に刊行される『メディア史年表』『近代日本メディア人物評伝(ジャーナリスト編)』(いずれも共著)の原稿作業のほか、新聞メディアの将来像を探る作業をメディア関係者らと共同研究で進めており、「ニュースの未来学」として共著論集にまとめる予定。また、戦後の書評新聞の草創期の新資料が手に入ったので、来年以降、出版文化、出版団体に関する研究・論考にまとめたいと考えている。このほか、中野正剛、ソビエト文化など、ジャーナリズム史、大衆文化での原稿を進めるべく準備している。

(鈴木貴宇委員)ここ数年、夏季休暇中に十日ほどプランゲ文庫へ調査に出るのが慣例となっていました。今年度は年度末に設定したことから、久しぶりに国内で過ごす夏休みとなりました。読みたい本や観たい映画も山積しているし、少しは論文も進めたいものと指折り予定を挙げたものの、根が貧乏性で出不精なので地味にインタビュー調査と学会出張に出かけたくらいです。それでも、他業種ではまずいただけない一ヶ月近くの間はありがたいもの、秋からの講義と研究に向けてエネルギーを蓄えることができました。研究会でまた皆さまにお目にかかるのを楽しみにしております。

[9月 15 日付 文責:土屋礼子]